

反汗秘録



タイトル番号 : 0033

書名 : 反汗秘録

1冊

反汚襖縁

その中より縁と腐し〜  
あきり〜  
すま〜  
後者〜  
り〜  
油香〜  
世〜  
反古〜



乃其の心く御 昔の心と覚し  
名は女とばくくお思ひた友古のむに  
表はあかくて一はよあ 一あ  
中りの及汚秘録上巻の御  
んまの心く名の心ま又と混濁の  
下まの心く又他えとま  
染一物の人へくまの心  
ゆりて

### 及汚秘録

以て寛政五年の春中小の御大納言  
愛親<sup>五十二</sup>所<sup>四十二</sup>前<sup>三十二</sup>大納言と明々<sup>五十二</sup>  
國東<sup>四十二</sup>の<sup>三十二</sup>御<sup>二十二</sup>心<sup>一十二</sup>く  
まの心とまの心一朝一夕の事に  
りて中山<sup>四十二</sup>の<sup>三十二</sup>御<sup>二十二</sup>心<sup>一十二</sup>く  
して社<sup>四十二</sup>の<sup>三十二</sup>御<sup>二十二</sup>心<sup>一十二</sup>く  
建<sup>四十二</sup>の<sup>三十二</sup>御<sup>二十二</sup>心<sup>一十二</sup>く  
是又社<sup>四十二</sup>の<sup>三十二</sup>御<sup>二十二</sup>心<sup>一十二</sup>く

禁裏の霜は〜  
人なり御ふ近代言ふの格威は〜  
禁裡と名まは〜  
は〜  
裏殿の

禁裏なれ〜  
あやま〜  
〜  
公卿は〜  
あり御中代乃

立上、用院言曲に親王の御業も〜  
と希 後醍醐院御名例の御御養子  
〜  
〜

天皇の御血脈と違〜  
〜  
〜  
〜  
〜











信長とて格別におもひなす

月の帝を齋の國ゆく御休息の事如何ぞ

とも格別の事なりおの後文も入ると思

河國喜ばるゝとて有る事信長并文の

海文におもひ御休息の事如何ぞ

中七 主上の御教文天にきり

御いかに御おぼしむる信長に御休

息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

密にまゝに札の奉りしと知る人さ

あるとてやいざ別殿の御教も御休

わありとて御休息の事如何ぞ

の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

將軍補佐 上糸の折柄 御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

御休息の事如何ぞ御休息の事如何ぞ

